

令和7年度内間御殿整備事業について

(石牆保存修理(解体)工事及びフクギの根切り・伐採)

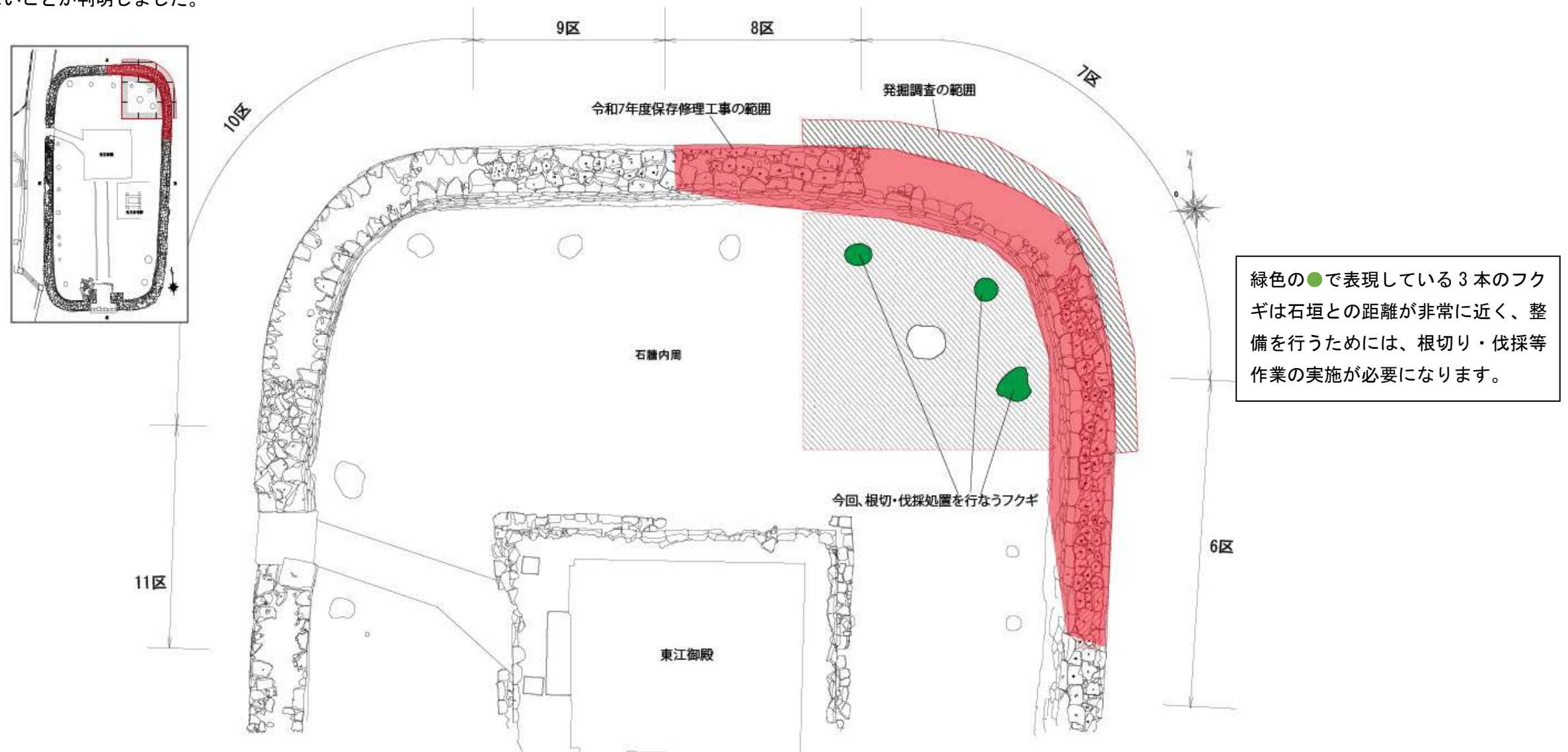
【令和7年度の整備計画】

今年度は、内間御殿の中心的施設である「東江御殿」周囲を囲う石垣の北側から北東部の保存修理(解体)工事を行ないます。経年等により傾いたり、崩れている石積みの一部を解体し、次年度以降復旧・復元工事を行なう予定です。この整備を行うにあたり、石垣の内周に沿って生育しているフクギの大木を根切り・伐採が必要になりました。

令和6年度にフクギの健康状態等を調べる調査を樹木の専門家である街路樹診断士に依頼し、調査した結果、東江御殿の敷地内のフクギはすぐに倒木する危険性はないと判定されました。しかし、東江御殿の石垣の根石一帯にフクギの根が接している状態であることから、石垣を整備するためには、根切りを行わなければならない、さらに根切りを実施するためには、石垣に近接しているフクギの大木を根元付近より伐採しなければならないことが判明しました。

今年度の整備事業では、石垣の保存修理工事を行なうとともに、範囲にかかる3本のフクギの根切り・伐採等作業を行なうこととしました。

令和7年度の内間御殿整備事業では、下図にある赤塗り範囲の石垣を根元付近まで解体し、一番下にある根石の確認と、石積みの構造と積石の状態の記録調査と石積みの現況を把握するための発掘調査(下図の斜線の範囲)を計画しています。



【フクギの対応について】

令和6年度に行なったフクギ調査の結果、史跡の整備を進めるためには、フクギの根切り作業が必要ですが、現状では石積みとフクギの距離が非常に近く、根切り作業が出来ないことが判明しました。なお、根切り作業を行うためには、石垣とフクギの間の距離が1m以上ないと作業が出来ません。

現在、東江御殿敷地内には29本のフクギが生育しておりますが、そのうち石垣との距離が1m未満のフクギは19本あります。根切り作業を行うためには、フクギを根元付近より伐採して切株の状態にすると、根切りのための作業スペースが確保されることとなります。

今年度、根切り・伐採等作業を予定しているフクギは3本あり、いずれも石垣との距離が50cm～80cmと近接しています。

